

球磨川水系の河川整備基本方針の見直しに関する質疑

2021年9月24日

日本共産党 県議会議員 山本伸裕

日本共産党の山本のぶひろです。球磨川水系の河川整備基本方針の見直しに関して知事にお尋ねします。国交省が示した基本方針案は、昨年7月豪雨と同等の雨が降れば、たとえすべての対策を講じたとしても、人吉地点から下流の大部分で計画高水位を超過します。16日の自民党代表質問において坂田議員が「はいそうですかとはなかなか言い難く、不安が募った」と言われましたが、これは流域住民共通の思いでありましょう。知事自身も、昨年11月の全員協議会で「今回のような想定を超える豪雨、さらには、それさえも上回る豪雨は、いつどこで起きても不思議ではありません。」と表明しておられます。ならば、少なくとも基本方針において、昨年7月豪雨を計画対象にしないということはある得ない話ではないでしょうか。

知事にまずお尋ねします。知事は、熊本県防災組織のトップであり、基本方針検討小委員会のメンバーに加わっておられます。住民の不安にこたえるためにも、少なくとも昨年7月豪雨災害に耐えうる河川整備基本方針の策定を国に求めるのは当然であると思いますが、これまでの小委員会ではそうした要求はされなかったのですか。端的にお答えください。

気候変動により、今後ますます増大していく降雨量を考慮すべきだということで、いま国交省は河川整備計画の見直しを進めています。ところが球磨川においては、将来にわたって進められていくべき河川整備の計画が、まさに気候変動の影響で現実に起こってしまった昨年豪雨災害をなぜか計画対象にしないという、前代未聞の計画案が示されました。これは、昨年の豪雨検証委員会の結論につじつまを合わせようとした結果ではないのでしょうか。検証委員会では、昨年豪雨で人吉地点を流れたピーク流量は毎秒7,900トンとしましたが、この数字には住民や専門家から相次いで、実際はもっと流れていたとの指摘がありました。ただそれを認めてしまえば、川辺川ダムがあれば水害を6割減らせたとの根拠・結論が怪しくなってしまう。そこで今回の基本方針案でも人吉における基本高水流量、計画高水流量において、検証委員会の結論と整合性の取れる値が示されましたが、そうすると人吉から下流域では、結果的に昨年豪雨の実績を下回る基本高水流量となってしまったということではないのでしょうか。

いっぽう、球磨川流域治水協議会は今年はじめ、流域治水対策プロジェクトを取りまとめました。これに基づき、いま八代市坂本町や球磨村では、昨年7月豪雨災害でも対応できる宅地かさ上げ、高台移転などの計画が進められています。さらに加えて、基本方針案では河床掘削により流量を増やすことも明記されました。ところが、

人吉市においてはどうか。昭和 40 年に設定された計画高水流量毎秒 4,000 トンは緊急治水プロジェクトでも基本方針案でも全く変更がありません。そして基本方針案では、ダム等の調節量が川に流す量を上回るといふ、全国にない異常な治水計画となっていますが、今後将来、降雨量が 1.2 倍、1.3 倍と増えれば、さらにダムに水をためこみ続けるということになります。このこと自体が大変恐ろしい計画であります。しかも、人吉市においては安全の確保は、何年先になるかもわからないダムの完成を待たなければなりません。

同じ令和 2 年 7 月豪雨災害で被害を受けた住民でありながら、かたや危険が軽減・解消される地域と、かたや危険性の解消がいつになるのか見通しが立たない地域が生まれてしまうこととなります。人吉の被災者の方々は、「元の場所に住まいを再建してよいのか」、「再び水害に見舞われたらどうしよう」という不安を抱えておられます。何年先になるのかわからないダム建設のために、人吉市民の安全まで先送りにしてしまうような計画は、容認できないのは当然ではないでしょうか。

知事におかれましては、明確に国・国土交通省に対し、人吉市を危険にさらすこのような方針案は認められないと表明すべきではありませんか。これも端的に答弁を求めます。

※蒲島知事答弁（要旨）

- ・今月 6 日に、河川整備基本方針検討小委員会が開催された。
- ・令和 2 年 7 月豪雨と同規模の洪水の水位は、計画堤防高を超えないものの、人吉市より下流で、計画高水位を超過する区間があることが示された。
- ・「流域治水」を多層的に進めることなどにより、水位の低下や被害の最小化を図ることが示された。
- ・この内容は、「球磨川水系流域治水プロジェクト」の内容と整合しており、令和 2 年 7 月豪雨に対応していると受け止めたため、容認できないとは言わなかった。
- ・国・流域市町村、住民の皆様と連携し、流域の安全の確保に向けて全力を尽くしてまいります。

※山本切り返し

令和 2 年 7 月豪雨に対応していると受け止めたと言われましたが、それは人吉市においては、ダムができればの話であります。ダムができるまでどうやって安全を守るのかという不安の声には全く答えるものにはなっていません。ダム完成まで、人吉市の治水安全度は向上しない。これで知事は人吉市民の不安にこたえることができるのですか。しかもダムができたとしても、これからますます進行するかもしれない気候変動のもとで、昨年豪雨災

害を上回る雨が降れば、さらにダムにため込む量を増やし続けるというのです。今年8月の長雨で天草の亀川ダムが実施したように、緊急放流という事態に至ることは今後十分に起こりうる話であり、ダム貯水量が増えれば増えるほど、緊急放流の際の下流域住民の危険度は増大するのではありませんか。住民の命を守るためにダムが必要だと国・県は言われますが、実際はダムを作るために住民の安全が犠牲にされているのではないのでしょうか。

こうした計画を容認して、知事は熊本県の防災のトップとして、住民の命を守ることに責任が果たせるのかということ強く申し上げ、質疑を終わります。